

帳票デジタル化進む

地域銀

データ活用を視野

地域銀行では事務の本部集中・ペーパーレス化などの理由から、営業店帳票類の電子化の取り組みを強化している。これまでのように画像として保管するだけでなく帳票の文字を認識し情報化、データを利活用する動きも活発だ。コストとされていた帳票事務が収益化する可能性も見えてきた。

営業店で発生する大量の帳票類の事務処理、保管は作業やコスト面で大きな負担だった。しかしe-文書法と改正電子帳簿保存法施行などを背景に、申請書類や証明書を電子化するニーズが増えている。

さらにコロナ禍以降、店舗の見直しなどで効率的な営業店運営が求められる、窓口事務の省力化は加速している。各種書類を顧客にタブレットでデータ入

力がしてもらおうなど、紙文書に関わる事務処理を削減し、営業店の2線処理を廃止する動きも出ている。人的資源を営業へ転換することで収益向上を目指す金融機関も増えている。こうしたなか、プリマジェストのイメージ処理ソリューション基盤が注目を集め導入が相次いでいる。南都銀行、四国銀行などの事務センターが電子ファ

入し、事務効率化を同社が支援してきた。営業店から日次で集められた帳票類は、事務センターで読み取られ画像化、さらにOCR(光学式文字認識)で高速、高精度にデータ化することが可能。画像だけでなく文字データのため、店番や口座などと紐つけて保存。営業店職員は端末から情報を検索、閲覧できる。

同時に原本に印刷されたQRコードも読み取り、自動的に保管年限別に分類し集中保管することも可能だ。営業店の保管スペースの削減にもなる。

2021年に導入した肥後銀行は、また違った事情があった。20年7月豪雨による人吉地区の浸水被害で、営業

店の紙文書が被害を受けた。この教訓を受けBCP(業務継続計画)の一環として取り組み、営業店には原則、文書類を保管しないこ

とを旨指している。帳票のデータ化はCRMなどの他システムと連携することで、さまざまなデータ分析が可能になり、例えばマ

「一部分が半透明になっており、中身が見える透ける紙製ファイル」

ルのように紙製ファイルの透け加工による「透け」を新製品ラインアップし、選択肢を金融機関

企業財務IT

業種の紙文書が被害を受けた。この教訓を受けBCP(業務継続計画)の一環として取り組み、営業店には原則、文書類を保管しないこ

とを旨指している。帳票のデータ化はCRMなどの他システムと連携することで、さまざまなデータ分析が可能になり、例えばマ

マーケティングなどにも活用が考えられる。広島銀行はシステム空き時間を活用し、地域内の他の金融機関の事務処理、電子化を委託。これまでコストだった事務センターで収益化を目指している。

・保険業はから専門知識教育の「が主っている。を企画する活用してお「DX推進たい」とのた。 ESG

みらいワークス

金融・保険が2位

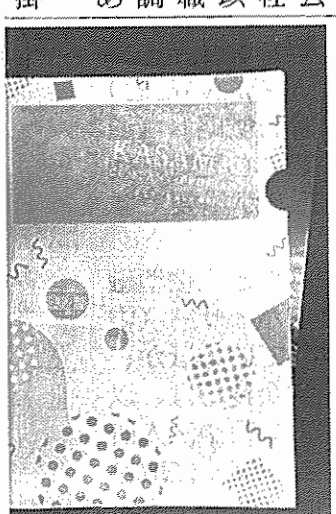
プロ人材活用調査

業種別ランキングでは金融・保険業界が2位になり「予想以上に利用している」(同社)結果となった。

プロ人材の活用は、1位が製造業、3位は情報通信業だった。利用の高い企業はノウハウのある人材を新卒や中途採用でなく迅速に確保し、システム設計や開発など数カ月〜数年単位のプロジェクトで使っている。金融

「透ける紙製ファイル」

&A後のトラブル回避
協会内で環境問題や人
金申請の支援を手掛



「透ける紙製ファイル」